

計画期間

平成28年度～平成37年度

えりも町酪農・肉用牛生産(酪農・肉用牛生産)近代化計画書

平成28年2月

北海道えりも町

目 次

- I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針
- II 生乳の生産数量の目標並びに乳牛及び肉用牛の飼養頭数の目標
 - 1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標
 - 2 肉用牛の飼養頭数の目標
- III 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標
 - 1 酪農経営方式
 - 2 肉用牛経営方式
- IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大のための措置
 - 1 乳牛（乳肉複合経営を含む）
 - 2 肉用牛
- V 飼料の自給率の向上に関する事項
- VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
 - 1 集送乳の合理化
 - 2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置
- VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項
 - 1 担い手の育成と労働負担の軽減のための措置
 - 2 その他必要な事項

※酪農生産近代化計画は、計画策定基準に満たないため、準ずる計画となる。

I 酪農及び肉用牛生産の近代化に関する方針

1 えりも町の酪農及び肉用牛生産の役割・機能

本町における農業は、肉用牛生産を中心に酪農・軽種馬等生産により構成されています。

酪農経営は、生乳・乳製品の需給に配慮した適正規模による経営体質の強化を図りつつ、飼養管理技術の向上とともに乳質の向上改善に努める。また、繁殖牛の選抜淘汰を行い、優良雌牛を確保し、経営の安定を図る。

肉用牛生産は、かつては沿岸漁業漁家の不漁対策として日本短角種が導入されましたが、近年、黒毛和種への転換が進み、黒毛和種の素牛生産が本町農業の主力となっている。

自給飼料の生産は、町有牧野の豊富な草資源を活用し、より一層の飼料自給率の向上を図る。

2 資源循環型で環境負荷軽減に資する自給飼料基盤による酪農及び肉用牛生産への転換

畜産業が主体となっている本町の農業において、家畜排せつ物由来の堆肥を草地へ還元し、有効活用を図り、適切な肥培管理により良質な自給飼料生産に努める。

また、自給飼料の生産性及び品質の向上を図るため、補助事業を活用した基盤整備や草地改良を推進する。

3 消費者ニーズに応えた畜産物の生産

安心・安全な畜産物の生産を図るため、家畜衛生飼養管理基準等を遵守し、酪農においては、乳牛検定事業等の活用やポジティブリスト制度等に沿った薬品の適正使用に努め、乳質の改善を図る。また、肉用牛生産においては、消費者が求める良質で安全な牛肉の安定供給を目指す。

II 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標又は肉用牛の飼養頭数の目標

1 生乳の生産数量及び乳牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の範囲	現在（平成25年度）					目標（平成37年度）				
		総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量	総頭数	成牛頭数	経産牛頭数	経産牛1頭当たり年間搾乳量	生乳生産量
		頭	頭	頭	kg	t	頭	頭	頭	kg	t
えりも町	町内一円	51	35	35	6,080	213	50	40	35	7,200	252
合計		51	35	35	6,080	213	50	40	35	7,200	252

(注) 1. 成牛とは、24ヶ月齢以上のものをいう。以下、諸表において同じ。

2. 生乳生産量は、自家消費量を含め、総搾乳量とする。

3. 「目標」欄には、平成37年度の計画数量を、「現在」欄には原則として平成25年度の数量を記入すること。以下、諸表について同じ。

2 肉用牛の飼養頭数の目標

地域名	地域の範囲	現在（平成25年度）									目標（平成37年度）								
		肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等				肉用牛総頭数	肉専用種				乳用種等			
			繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計	繁殖雌牛		肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	計		
えりも町	町内一円	1,710	780	154	566	1,500	0	210	210	2,140	1,020	280	640	1,940	0	200	0		
合計		1,710	780	154	566	1,500	0	210	210	2,140	1,020	280	640	1,940	0	200	0		

(注) 1. 繁殖雌牛とは、繁殖の用に供する全ての雌牛であり、子牛、育成牛を含む。

2. 肉専用種のその他は、肉専用種総頭数から繁殖雌牛及び肥育牛頭数を減じた頭数で子牛を含む。以下、諸表において同じ。

3. 乳用種等とは、乳用種及び交雑種で、子牛、育成牛を含む。以下、諸表において同じ。

Ⅲ 酪農経営又は肉用牛経営の改善の目標

1 酪農経営方式
単一経営

方式名 (特徴となる取組の概要)	経営概要						生産性指標														備考			
	経営形態	飼養形態				牛		飼料							人									
		経産牛頭数	飼養方式	外部化	給与方式	放牧利用(放牧地面積)	経産牛1頭当たり乳量	更新産次	作付体系及び単収	作付延べ面積※放牧利用を含む	外部化(種類)	購入国産飼料(種類)	飼料自給率(国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト	労働		経営					
					(ha)	kg	産次	kg	ha			%	%	割	円(%)	経産牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間(主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得			
スタンション35頭タイプ	家族	35	S T	ヘルパー	分離給与	舎飼	7,200	5	混播主体	4.2	30	個別完結	穀類等		70	70	10	67 (90.0)	60	2,000	2,160	1,688	472	472

- (注) 1. 「方式名」欄には、経営類型の特徴を、「備考」欄には「方式」の欄に掲げる方式を適用すべき区域名等を記入すること。
 2. 6次産業化の取組を織り込む場合には、基本方針の第3の票のように、6次産業化部門に係る指標を分けて記入すること。
 3. (注) 1, 2については、「2 肉用牛経営方式」についても同様とする。

(2) 肉牛用（肥育・一貫）経営

方式名 (特徴となる取組の概要)	経営概要				生産性指標																	備考	
	経営形態	飼養形態			牛					飼料							人						
		飼養頭数	飼養方式	給与方式	肥育開始時月齢	出荷月齢	肥育期間	出荷時体重	1日当たり増体量	作付体系及び単収	作付延べ面積※放牧利用を含む	外部化(種類)	購入国産飼料(種類)	飼料自給率(国産飼料)	粗飼料給与率	経営内堆肥利用割合	生産コスト	労働		経営			
肥育牛1頭当たり費用合計(現状平均規模との比較)	牛1頭当たり飼養労働時間	総労働時間(主たる従事者の労働時間)	粗収入	経営費	農業所得	主たる従事者1人当たり所得																	
専用種繁殖肥育一貫経営	家族	頭繁殖80	牛房群飼	分離給与	ヶ月8	ヶ月26	ヶ月18	kg780	kg1	kg3,800	ha50	—	穀類等	%49	%50	割7	円(%) 844,000 (90.0)	hr 40	hr 2,000	万円 5,616	万円 5,064	万円 551	万円 551

- (注) 1. 繁殖部門との一貫経営を設定する場合には、肉専用種繁殖経営の指標を参考に必要な項目を追加すること。
 2. 「肥育牛1頭当たりの費用合計」には、もと畜費は含めないものとする。

IV 乳牛及び肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

1 乳牛

(1) 地域別乳牛飼養構造

地地域名		①総農家戸数	②飼養農家戸数	②/①	乳牛頭数		1戸当たり平均飼養頭数 ③/②
					③総数	④うち成牛頭数	
えりも町	現在	戸 28	戸 2 (0)	% 7	頭 51	頭 35	頭 26
	目標		戸 2 (0)			頭 40	—
合計	現在	戸 28	戸 2 (0)	% 7	頭 51	頭 35	頭 26
	目標		戸 2 (0)			頭 40	—

(注) 「飼養農家戸数」欄の()には、子畜のみを飼育している農家の戸数を内数で記入する。

(2) 乳牛の飼養規模の拡大のための措置

牛群検定事業によるデータを効率的に活用し、牛群の淘汰更新を行い、生産性の向上を図るとともに、酪農ヘルパー制度を活用した労働力軽減対策を推進し、経営体質の強化を図る。

2 肉用牛

(1) 地域別肉用牛飼養構造

	地域名		① 総農家数	② 飼養農家 戸数	②/① %	肉用牛飼養頭数								
						総数	肉専用種				乳用種等			
							計	繁殖雌牛	肥育牛	その他	計	乳用種	交雑種	
肉専用種繁殖経営	えりも町	現在	戸 28	戸 24	% 83	頭 1,476	頭 1,266	頭 703	頭 28	頭 535	頭 210	頭 0	頭 210	
		目標		24		1,820	1,620	920	100	600	200	0	200	
	合計	現在	28	24	83	1,476	1,266	703	28	535	210	0	210	
		目標		24		1,820	1,620	920	100	600	200	0	200	
	肉専用種肥育経営	えりも町	現在	28	1	3	234	234	77	126	31	0	0	0
			目標		1		320	320	100	180	40	0	0	0
合計		現在	28	1	3	234	234	77	126	31	0	0	0	
		目標		1		320	320	100	180	40	0	0	0	
乳用種・交雑種肥育経営		現在												
		目標												
	合計	現在												

(注) () 内には、一貫経営に係る分（肉専用種繁殖経営、乳用種・交雑種育成経営との複合経営）について内数を記入すること。

(2) 肉用牛の飼養規模の拡大のための措置

町有牧野の豊富な草資源を活用し、良質で低コストな自給飼料の生産を図るとともに、適切な肥培管理・計画的な草地更新により町有牧野の維持・管理に努める。

V 飼料の自給率の向上に関する事項

1 飼料の自給率の向上

		現在	目標（平成37年度）
飼料自給率	乳用牛	57%	70%
	肉用牛	86%	90%
飼料作物の作付延べ面積		1,813ha	1,813ha

2 具体的措置

飼料作物の作付面積は、現状、ほとんど未利用地がないことから現状維持とするが、計画的に草地更新を行うとともに、草地の土壌分析等により適切な肥培管理を行い、良質な自給飼料の増産を図る。

VI 生乳の生産者の集乳施設の整備その他集乳の合理化のための措置又は肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

1 集送乳の合理化

当町を含め近隣町の酪農経営者が年々減少している中で、従来どおり広域出荷体制を維持し、流通コストの低減を図る。

2 肉用牛の共同出荷その他肉用牛の流通の合理化のための措置

(1) 肉用牛(肥育牛)の出荷先

区域名	区分	現在 (平成25年度)						目標 (平成37年度)					
		出荷頭数 ①	出荷先			②/①	出荷頭数 ①	出荷先			②/①		
			県内					県外	県内			県外	
			食肉処理 加工施設 ②	家畜市場	その他				食肉処理 加工施設 ②	家畜市場			その他
	肉専用種 乳用種 交雑種	頭 84	頭 80	頭 0	頭 0	頭 4	% 95	頭 120	頭 110	頭 0	頭 0	頭 10	% 92
合計	肉専用種 乳用種 交雑種	84	80	0	0	4	95	120	110	0	0	10	92

(注) 食肉処理加工施設とは、食肉の処理加工を行う施設であって、と畜場法(昭和28年法律第114号)第4条第1項の都道府県知事の許可を受けたものをいう。

(2) 肉用牛の流通の合理化

流通コストの削減を図るため、素牛生産から肥育までの一貫生産を推進する。

VII その他酪農及び肉用牛生産の近代化を図るために必要な事項

1 担い手の育成と労働負担の軽減のための措置

農家後継者・新規就農者を確保するために、各種の給付金・交付金・資金の情報を提供するとともに、各種研修会等への参加を推進する。

農家の高齢化等に伴い労働力が低下していることから、採草地の共同刈取り等を推進し、労働負担の軽減を図る。

2 その他必要な措置

酪農・肉用牛について、遺伝的能力評価に基づき、優良血統雌牛の導入や受精卵移植技術の活用を推進し、能力の高い産子の生産・保留に努め、優良繁殖雌牛の増頭を目指す。